

# *SYSTEM MIX PLUS*

日本語取扱説明書



**株式会社サウンドハウス**

**Professional Sound Equipment Specialist**

〒286-0044 千葉県成田市不動ヶ岡 1958

TEL:0476-22-9333

FAX:0476-22-9334

## はじめに

この取扱説明書には諸機能の説明、および各機能の使い方が詳しく書いてあります。商品の性能をフルに発揮させ、末永くお使い頂く為にはこの取扱説明書をよくお読みになり、注意点や警告については特に目を通して下さい。尚、お読みになった後は、保証書と一緒に大切に保管して下さい

## ご使用前に

1. この取り扱い説明書にしたがって操作して下さい。
2. 水には大変弱いので、雨などがかからないよう充分ご注意下さい。
3. 内部には精密な電子部品が多数実装されています。移動及び輸送時には大きな衝撃が加わらないようにして下さい。
4. 本機の設置場所は直射日光の当たる場所やストーブの直前など、高温になりやすい場所を避け、なるべく通気性の良い場所で御使用下さい。
5. 定格電圧 AC100V,50/60Hz で御使用下さい。
6. 電源コードは機材への挟みこみ等、無理な力が加わらない様御注意下さい。
7. 信号の入出力端子に、許容範囲を越える異常電圧が加わらない様にして下さい。
8. 故障や感電事故を防止すると共に、性能を維持する為にも、ケースを開けて内部に触れたりしないでください。修理が必要な時には、販売店、もしくは輸入代理店までお問い合わせ下さい。

# 1.Introduction

## 1.1 商品概略

System Mix Plus は、エレキギター専用にデザインされたステレオ仕様ラインレベル・オーディオ・ミキサーです。System Mix Plus を使えば、ラック・エフェクトのラインレベル出力と、アンプまたはプリアンプの音をミキシングすることができます。この手法を使うとノイズが落ち、美しいサウンドが得られます。

またスタジオ・ミキシング・コンソールに直接録音したり、PA システムに System Mix Plus を直接接続できるよう、便利な機能も搭載されています。

スピーカー・キャビネット・シミュレーション回路(“ 2x12 オープン ” または “ 4x12 クローズ ” に切替可能なキャビネット・サウンド)

バランス仕様 XLR 出力端子

ヘッドフォン・モニタリングシステム(出力信号、入力信号ごとに別々のボリューム・コントロール付)

System Mix Plus には MIDI ステレオ・ボリューム・コントロール( VCA-Voltage Controlled Amplifier ) が搭載されています。MIDI ステレオ・ボリューム・コントロールはラインレベルのシグナル・パスのどこにでも挿入可能です。グランド・コントロールをはじめ、MIDI コントロール・メッセージを送信可能なデバイス全てに対応します。これでボリューム・ペダルにオーディオケーブルを接続することなく、音量を調節することができます。

4 系統のオーディオ信号出力、MIDI 出力を受信する為、フロント-バック・パッシブ・フィードスルーが搭載されています。

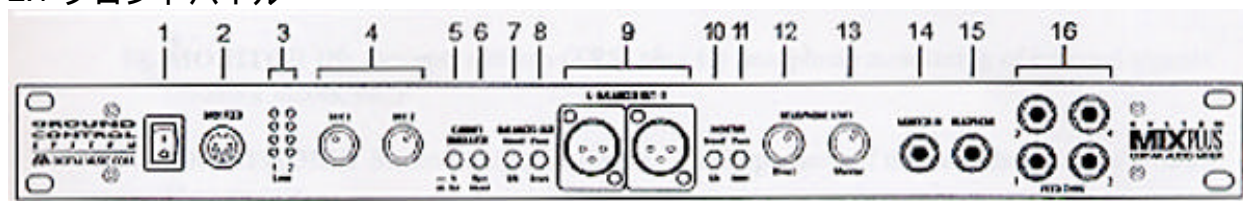
## 1.2 ご確認ください

同梱物を確認してください。

1. 本マニュアル
2. System Mix Plus 本体
3. 電源装置

## 2.各部の働き

### 2.1 フロントパネル



1. **Power Switch** : 本体に電源を供給します。
2. **MIDI FEED** : リアパネル上の MIDI FEED にスルーの信号を送ります。
3. **Level LEDS** : Mix1 および Mix2 の出力レベルを表示します。

スレッシュホールドに達すると、以下のように点灯します。

+10 dBu (赤)

0 dBu (黄色)

-10 dBu (緑色)

-20 dBu (緑色)

注意 : 0 dBu = 0.775 volt RMS)

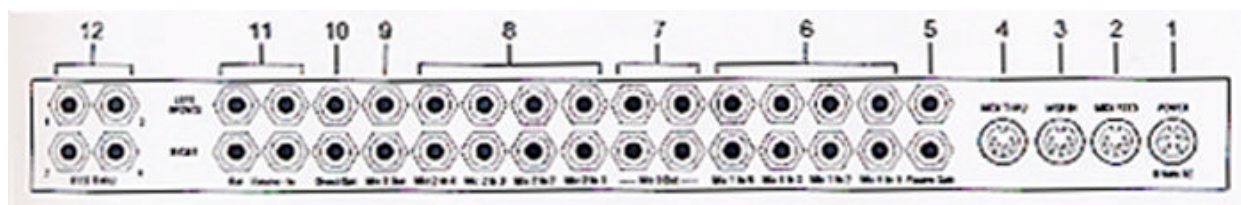
シグナル・ピーク時でも LED がほとんど黄色に点灯しないよう設定してください。また赤の LED は絶対に点灯しないよう調節してください。詳細は本マニュアルのセクション 3.3 を参照ください。

4. **MIX LEVEL CONTORLS** : Mix 1 および Mix2 のステレオ・ボリュームを設定します。ユニティー・ゲインのノブは時計の正午の位置に設定してください。
5. **CABINET SIMULATOR In/Out** : スピーカー・キャビネット・シミュレーターを ON/OFF 切り替えます。このボタンを押すと、シミュレーターが ON になります。
6. **CABINET SIMULATOR Open/Closed** : 2 種類のスピーカー・キャビネット・タイプを切り替えます。  
各タイプによって、キャビネット・シミュレーターの音が異なります。
7. **BALANCED OUT Ground Lift** : BALANCED OUT 端子のピン 1 をアース端子から断絶したい場合、このボタンを押します。
8. **BALANCED OUT Phase Invert** : BALANCED OUT 端子のピン 2 とピン 3 の位相を変換したい場合、このボタンを押します。ボタンが押されていない状態だと、ピン 2 はプラス、ピン 3 がマイナスの状態になります。反対にボタンが押された状態では、ピン 3 がプラスになります。
9. **L-Balanced Out-R** : Mix2 や、キャビネット・シミュレーターの左右のバランス出力端子を接続します。
10. **MONITOR Ground Lift** : MONITOR IN 端子のスリーブをアース端子から断絶したい場合、このボタンを押します。

11. **MONITOR Phase Invert** : ボタンが押された状態で、MONITOR IN 信号の位相が反転されま  
す。
12. **HEADPHONE LEVEL Direct** : ミキサー信号のヘッドホン音量を調節します。
13. **HEADPHONE LEVEL Monitor** : MONITOR IN 信号のヘッドホン音量を調節します。
14. **MONITOR IN** : 外部音声信号をヘッドホンでモニターするため、ステレオ (TRS) 端子を  
差し込みます。
15. **HEADPHONE** : ステレオ仕様のヘッドホン出力端子です。ヘッドホンのインピーダンス  
は 30 Ω 以上に設定してください。
16. **FEED THRU 1-4** : 4系統のパッシブ・フィード (モノラル仕様) は、リアパネル上の FEED THRU  
× 4 に直接接続されています。

## 2.2 リアパネル

注意 : リアパネル上のフォン端子は全てモノラル・プラグ用です。4系統の FEED THRU を除いては、  
リアパネルの上列はステレオの左チャンネル、下列は右チャンネルを接続してください。モノラル信号  
は全て左の入力端子に接続してください ( Mix 2 In 1 を除く )。信号は自動的に左右のチャンネルに送信  
されます。



1. **POWER** : 9V 仕様
2. **MIDI FEED** : パッシブのフィード・スルー信号をフロントパネル上の MIDI FEED に送ります。
3. **MIDI IN** : スタンダード 5 ピン MIDI コネクタです。MIDI コントロール・ボリュームに関する  
コマンドを受信し、MIDI THRU 端子にデータを送信します。
4. **MIDI THRU** : スタンダード 5 ピン MIDI コネクタです。MIDI IN 端子に入力された MIDI デー  
タを出力します。
5. **Passive Split** : この出力端子の信号は、“ Mix 1 In 1 ”入力端子に送信される信号と同一です。Y-cable  
を使用することなく、“ Mix 1 In 1 ”の信号を指定の場所に送信することが可能です。

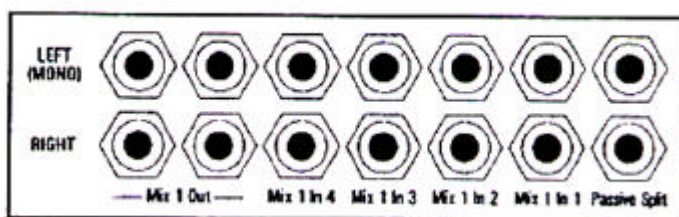
- 6. **Mix 1 Input** : Mix 1 のラインレベル入力端子です。ステレオ仕様、4 系統。
- 7. **Mix 1 Out** : Mix 1 のラインレベル出力端子です。右、左チャンネルは全く同一です。
- 8. **Mix 2 Inputs** : Mix 2 のラインレベル入力端子です。ステレオ 4 系統。

注意 : Mix 2 In 1 は Mix 1~Mix 2 間の内部接続 ( ノーマル ) をコントロールします。これらの入力端子になにも差し込まれていない場合、Mix 1 の出力端子が Mix 2 に入力されます。逆に入力端子に接続物がある場合、Mix 1/Mix 2 の内部接続は自動的に無効になります。

- 9. **Mix 2 Out** : Mix 2 のラインレベル出力端子 ( ステレオ ) です。
- 10. **Direct Out** : Mix 2 のラインレベル出力端子です。キャビネット・シミュレーターが ON 状態の場合、これらの出力端子が影響を受けます。
- 11. **Volume -In** : MIDI ボリューム・コントロールのラインレベル入力端子 ( ステレオ ) です。他の入力端子と同様に、左入力端子にケーブルを一本接続すれば、両方の出力端子から同じ音が主強くされます。
- 12. **Volume Out** : MIDI ボリューム・コントロールのラインレベル出力端子 ( ステレオ ) です。
- 13. **FEED THRU 1-4** : 4 系統のパッシブ・フィード ( モノラル仕様 ) はフロントパネル上の FEED THRU × 4 に直接接続します。

### 3.Mixer

#### 3.1 Mix 1



#### General

Mix 1 は左右の入力端子 4 ペア、Passive Split 出力端子 2 系統、MIX 1 出力端子 2 ペアから成り立っています。端子は全てモノラルプラグおよびラインレベル信号に対応しています。

モノラル信号の場合、左入力端子のみを使用してください。信号は自動的に左右のチャンネルに送信されます。

4 系統の入力端子を連合させると、全体の音量はフロントパネル上の MIX 1 つまみでコントロール可能

です。発生する音声信号は 2 セットの Mix 1 出力端子に送信されます。

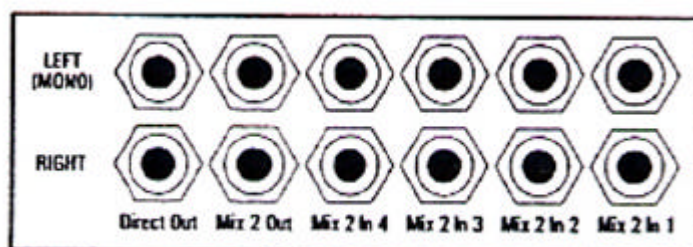
### Mix 1 In 1 and the Passive Split

エフェクターの出力をプリアンプのサウンドとブレンドすることができます。一般的にプリアンプ出力（またはアンプのエフェクト・センド）は Mix 1 In 1 に接続されます。Passive Split 出力信号は Mix 1 In 1 に送信される信号と同一です。Passive Split 出力端子はエフェクターの入力端子に接続します。

### Mix 1 Outputs

Mix 1 にはステレオペアの出力端子が 2 ペア装備されています。また Mix 1 は Mix 2 に内部接続されています。これらの出力端子をステレオ仕様エフェクターの入力端子に接続し、第 2 のシグナル・プロセッシングを行うことができます。エフェクターの出力端子は Mix 2 の入力端子に接続し、信号をリターンします。この手法では互いにカスケードする、2 段階の平行・エフェクトが可能になります。

## 3.2 Mix 2



### General

Mix 2 は左右の入力端子 4 ペア、Mix 2 出力端子 1 ペアから成り立っています。4 系統の入力端子を連結すると、全体の音量をフロントパネル上の Mix 2 つまみで設定できます。発生する音声信号ははじめ Mix 2 出力端子、次にキャビネット・シミュレータ回路に送られます。キャビネット・シミュレータ回路はリアパネルの Direct Out とフロントパネルの Balanced Out に信号を送信します。

### Mix 2 In 1

Mix 2 In 1 端子に何も差し込まれていない場合、Mix 1 のステレオ出力信号は Mix 2 に送信されます。Mix 2 In 1 にケーブルを差し込んだ時点で、このミキサー間の接続設定が無効になります。

## Mix 2 Outputs

Mix 2 出力端子が出力する信号は、全ての Mix 2 入力端子の信号を連結したものです。この出力端子を使って System Mix Plus をパワーアンプ、またはエフェクターのリターン・ジャックに接続します。

キャビネット・シミュレーターの出力端子が必要な場合、Direct または Balanced 出力を使用してください。

## 3.3 レベル設定

注意：このセクションでは、システムの接続が正しく完了したものと仮定して説明を行います。

System Mix Plus の入力端子はユニティ・ゲインに設定されています。従って入力端子のレベルは、対応する出力端子のレベルによって決定されます。レベル設定は、ギターシステムを使用する際の非常に重要なポイントです。正しく設定すればノイズは最大限に抑えられ、最高レベルの音質が堪能できます。また全体のエフェクト・バランスをコントロール可能です。

### 1. セットアップ

両方の Mix Level ツマミをユニティ・ゲインに設定してください（ツマミを正午の位置に設定）。

エフェクターの入出力レベルを OFF にして下さい。

各エフェクターのエフェクトレベルを 100% にして下さい。ウェット/ドライ・ミックスをウェットに設定するか、「Direct」信号を OFF に設定してください。

System Mix Plus ボリューム・コントロールを使用している場合、最大レベルに設定してください。

### 2. アンプ信号

ギターを弾きながら、プリアンプの出力レベルまたはアンプのエフェクト・SEND・レベルを調節してください。信号のピーク時に LED がわずかに黄色く点灯する位がベストの設定です。LED が赤く点灯する場合はクリッピングが発生しています。その場合出力レベルまたはエフェクト・SEND・レベルを下げてください。

### 3. エフェクト入力

各エフェクターの入力レベルを、一つずつ最大レベルに引き上げてください。

### 4. エフェクト出力

System Mix Plus の LED に注意しながら、各エフェクターの出力レベルを一つずつ上げてください。オーバーロードを避けつつ、最大レベルまで引き上げてください。

### 5. ウェット/ドライ・バランス

最終的なミックスでのエフェクトを減らしたい場合、各エフェクターの出力レベルを下げてください。逆にエフェクトのレベルを上げたい場合、プリアンプまたはエフェクト・センドの出力を下げ、上記 3 と 4 の手順を繰り返してください。

### 6. 最終的な出力レベル

Mix 2 ツマミは一般的に、システム全体のマスター・ボリューム・コントロールとして機能します。このツマミでステージ・ボリュームまたはダイレクト・シグナル・ボリュームをコントロール可能です。Mix 2 レベルコントロールは最大 6dB のゲインを供給可能なため、パワーアンプの入力端子をオーバーロードしないよう注意してください。ユニティ・ゲイン（ツマミが正午の位置）もしくは、ユニティ・ゲインより若干少ないレベル設定が一般的です。

## 4.MIDI ボリューム・コントロール

### 4.1 ボリューム・コントロールの接続

ボリューム・コントロールを使用するためには、シグナル・パスにパッチングする必要があります。MIDI ボリューム・コントロールの内部オーディオ接続はありません。接続方法や MIDI コマンドのタイプによって、ボリューム・コントロールはステレオ・ボリューム、パン、または 2 系統の独立したモノラル・ボリュームとして使用できます。

**ステレオ・ボリューム・コントロール：**音源ソースの左右の出力端子を、ボリューム・コントロールの入力端子に接続します。次にボリューム・コントロールの出力端子を、システム内の次のデバイスに接続します。

**モノラル・ボリューム・コントロール**：左の入力端子と出力端子を使い、通常のボリューム・ペダルと同様にボリューム/コントロールを接続します。

**デュアル・モノラル・ボリューム・コントロール**：左右のボリューム・コントロール入出力端子を別々に接続してください。

**ステレオ・パン・コントロール**：音源ソースのモノラル出力をボリューム・コントロールの左入力端子に接続してください。次に左右のボリューム・コントロール出力をシステム内の次のデバイスに接続します。

System Mix Plus で MIDI ボリューム・コントロールを使用するには、MIDI コマンド送信機能を備えたデバイスを、リアパネル上の MIDI 入力端子に接続する必要があります。Digital Music 社のグラウンド・コントロールもしくはそれ以外の対応機器を接続してください。

## 4.2 グラウンド・コントロールとボリューム・コントロールを併用する方法

グラウンド・コントロールで音量を設定する手順については、Ground Control 2.1 マニュアルもしくは Ground Control VCA (Volume Control) 補遺を参照ください。

## 4.3 グラウンド・コントロールとボリューム・コントロールを併用しない方法

System Mix Plus ボリューム・コントロールは、MIDI16 チャンネルに送信される連続したコントローラー・メッセージに反応します。VCA が反応するコンティニューアス・コントローラー・コマンドは以下の通りです。

007：ステレオ・ボリューム

010：パン

012：左チャンネル・ボリューム

013：右チャンネル：ボリューム

# 5. Recording & PA

## 5.1 キャビネット・シミュレーター

System Mix Plus キャビネット・シミュレーターを使用すると、ラインレベル信号はスピーカーキャビネットにアンプにかけられ、更にマイクで拡大されたような音になります。従って System Mix Plus を直接ギターに接続するにもかかわらず、洗練されたサウンドが手に入ります。

### 録音するには：

System Mix Plus をミキサーあるいはレコーダーに接続すると、手軽にレコーディングが行えます。

### ライブ・パフォーマンスには：

System Mix Plus を PA システムに直接接続してください。面倒なマイク接続やフィードバック、アイソレーションの問題を避けることができます。またステージ・ボリュームを低レベルに設定する必要がある際にも有効です。

サウンドは以下 2 種類より選択できます。

**Open**：オープン・バック 2×12 コンボ・スピーカーのパンチが効いた音

**Closed**：クローズ・バック 4×12 キャビネットの深く、力強い音

Mix 2 の出力は、System Mix Plus 内部でキャビネット・シミュレーターに送信されます。キャビネット・シミュレーター・スイッチが OFF の場合、シミュレーターは自動的に無効になります。反対にスイッチが ON の場合、シミュレーターが起動します。キャビネット・シミュレーターを起動すると、以下 3 種類のオーディオ出力に影響を与えます。

リアパネル上の Direct Out 2 系統（アンバランス仕様フォン端子）

フロントパネル上の BLANCED OUT 2 系統

ヘッドフォン・システム

リアパネル上の Mix 2 出力端子は、キャビネット・シミュレータの影響を受けません。Mix 2 Out とパワーアンプ（またはアンプ・エフェクト・リターン）を接続してください。

**重要**：System Mix Plus にアンプの出力端子を接続しないで下さい。ミキサーおよびアンプに重大な損傷を与える可能性があります。System Mix Plus の入力ラインレベルのみ対応しています。

## 5.2 ヘッドフォン・システム

ヘッドフォン・システムを使い、Mix 2 の出力および、ステレオ MONITOR IN 端子に送信される外部ソースの音声信号を聞くことができます。

**Direct Knob** : ギターシステムのヘッドフォン音量を設定します。キャビネット・シミュレーター・スイッチが ON の場合、ヘッドフォンのギター信号にシミュレーターの効果が加わります。

**MONITOR Knob** : 入力されるモニター信号の音量を設定します。

**Ground Lift Button** : ボタンを押すと、アース端子から MONITOR IN のスリーブを断絶します。スリーブの断絶により、グラウンド・ハムノイズを削除できる場合があります。

**Phase Invert Button** : MONITOR IN 信号の位相を転換します。ミキサーに送信されるギター音声信号の位相が、MONITOR IN にリターンされる信号の位相と合致していない場合、消去されてしまう周波数特性があります。

### 録音するには :

ステレオ (TRS) ケーブルをヘッドフォンのフィードから MONITOR IN 端子に接続してください。入力されるリファレンス・トラック (ドラム、ベースなど) とギター信号をミックスすることが可能です。

### 練習するには :

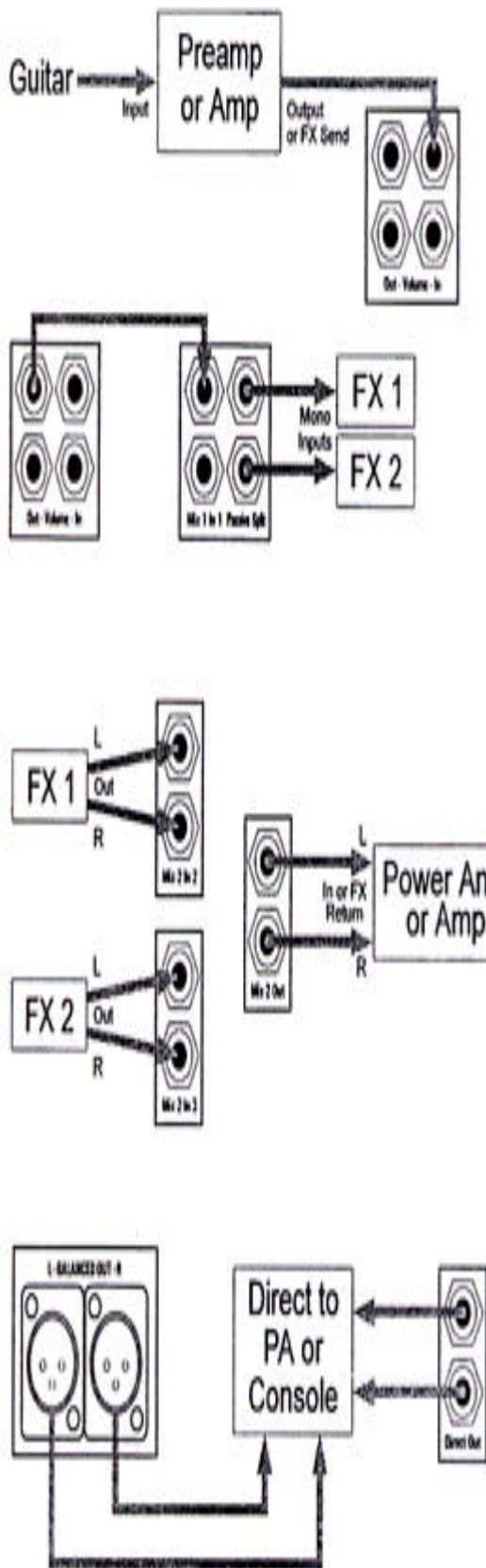
パワーアンプの電源を切ってヘッドフォン・システムを使用すれば、キャビネットをオーバーロードさせることなく練習ができます。

## 6.システムを組み立てる

System Mix Plus は非常にフレキシブルかつ万能なミキサーであり、使用パターンは無限に広がります。以下の説明は System Mix Plus の典型的な使用方法を図解したものです。使用例はあくまで基本なので、お客様のニーズに合わせて接続方法を変更してください。

注意 : System Mix Plus にはラインレベル信号のみを入力してください。スピーカーと System Mix Plus の接続は絶対におやめください。

## 6.1 典型例



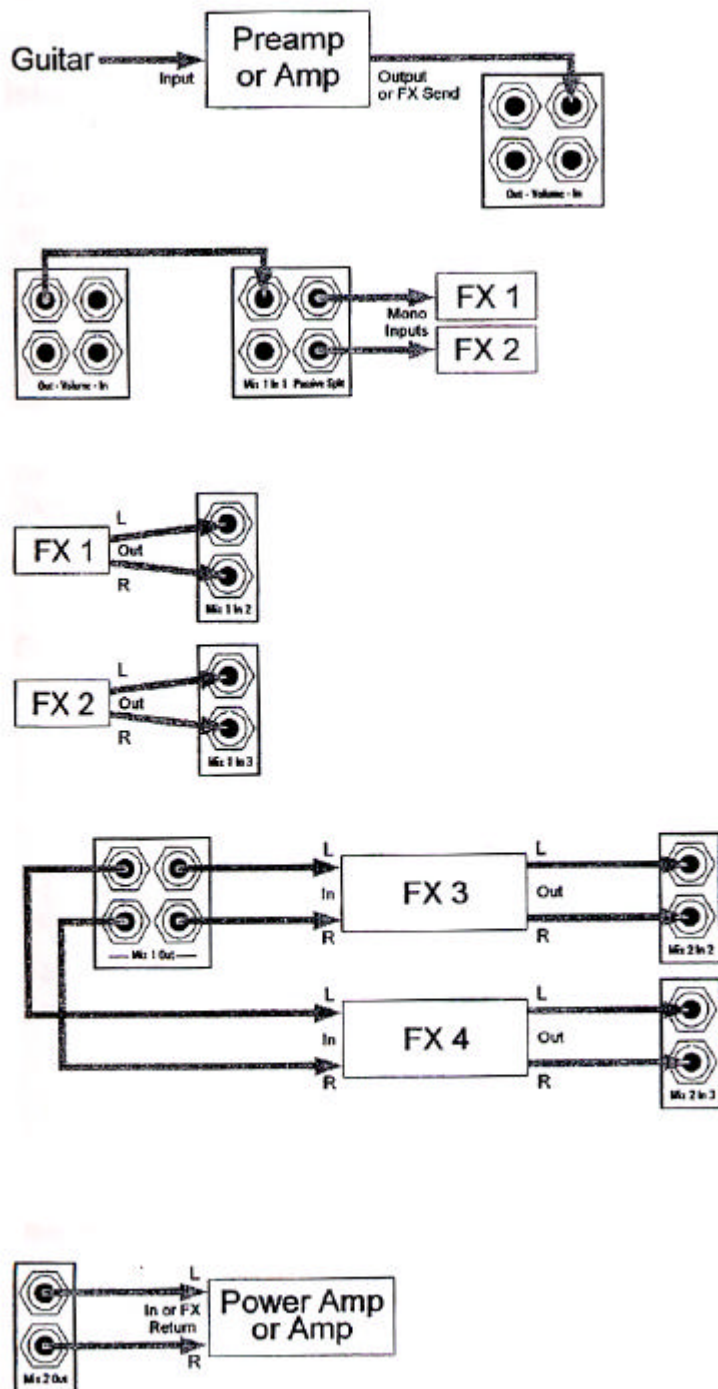
### System #1

プリアンプ(もしくはアンプ・エフェクト・ループ)と1もしくは2台のエフェクターを接続して作るシステムです。ボリューム・コントロールを最大限に利用したベーシックなシステムです。

1. ギターをアンプもしくはプリアンプの入力に接続します。プリアンプの出力端子もしくはアンプのエフェクト・SENDをボリュームコントロールの左入力端子に接続します。
2. ボリューム・コントロールから音声信号が出力され、Mix 1 In 1 Left に送信されます(ボリューム・コントロールを使用しない場合、アンプを Mix 1 In 1 に直接接続してください)。パッシブ・スプリットにより、プリアンプ信号のコピーがエフェクターのモノラル入力端子に送信されます。
3. エフェクターのステレオ出力はミキサーにリターンされ、元々のプリアンプの音とブレンドされます。この例では、この例では Mix 2 In 2 および Mix 2 In 3 を使用します。Mix 2 In 1 は Mix 1 (プリアンプ) と内部接続されている為、使用できません。次に Mix 2 出力端子をパワーアンプの入力端子、もしくはアンプ・エフェクト・リターンに接続します。
4. リアパネル上の Direct Out、もしくはフロントパネル上の Balanced Out をミキシングコンソール、またはレコーダーに接続可能です。キャビネット・シミュレーターが ON であることを確認してください。この例では、Mix 1 のツマミがプリアンプ・レベルを設定し、Mix 2 がミックス全体のレベルをコントロールします。レベル設定の詳細については、セクション 3.3 を参照ください。

## System#2

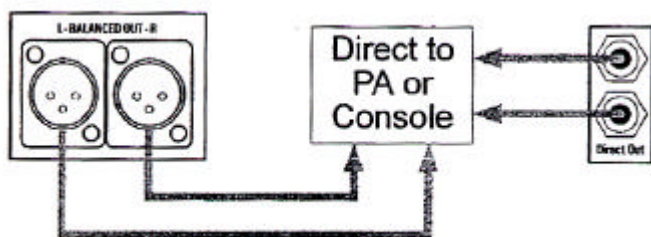
この例では 2 段階のエフェクト・システムを使用します。したがって、既にエフェクトがかかった音声信号を、別のエフェクトで加工することが出来ます。一般的に最終的なエフェクトはディレイやリバーブで、音声信号全体に適用するようにします。



1. ギターをアンプもしくはプリアンプ入力に接続します。プリアンプ出力やアンプ・エフェクト・センドはボリューム・コントロールの左入力端子に接続されます。
2. ボリューム・コントロールから出力された音声信号は、Mix 1 In 1 Left に送信されます（ボリューム・コントロールを使用しない場合、アンプを Mix 1 In 1 に直接接続してください）。パッシブ・スプリットにより、プリアンプ信号のコピーがエフェクターのモノラル入力端子に送信されます。
3. エフェクターのステレオ出力はミキサーにリターンされ、元々のプリアンプの音とブレンドされます。FX1 と FX2 の出力は、Mix 1 の In 2 と In 3 が受信します。これらのエフェクトは、元々のプリアンプの音と並行してブレンドされます。
4. 2 系統のステレオ Mix 1 を使って、第 2 段階のステージ・エフェクトを送信します。FX3 と FX4 は Mix 1 の全ての音声信号（プリアンプ信号および FX 1、FX2 の出力信号）にエフェクトをかけます。Mix 1 の恩師信号は、内部接続設定によって Mix 2 に

も送信されることに注意してください。FX3 および FX4 のステレオ出力はミキサー ( Mix 2 の In 2 および In 3 ) にリターンされ、Mix 1 の元々の音声信号とブレンドされます。

5. Mix 2 の出力はパワーアンプの入力端子、またはアンプ・エフェクト・リターンに接続されます。



6. リアパネル上の Direct Out または、フロントパネル上の Balanced Out をミキシングコンソール、またはレコーダーに接続することが可能です。その場合キャビネット・シミュレーターを ON に設定してください。

この例では、Mix 1 のつまみによってプリアンプ、FX 1 および FX 2 の信号レベルを設定します。Mix 2 のつまみはミックス全体のレベルを設定します。レベル設定の詳細については 3.3 セクションを参照ください。

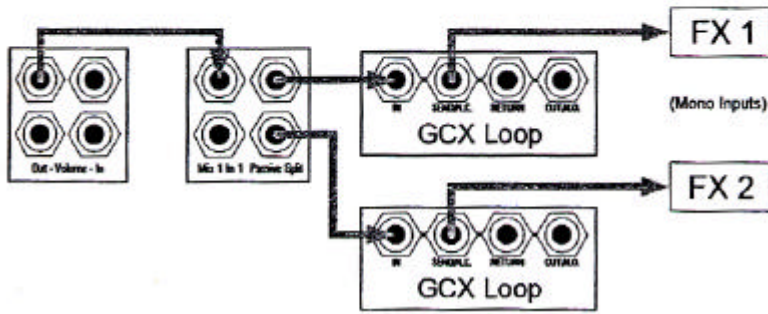
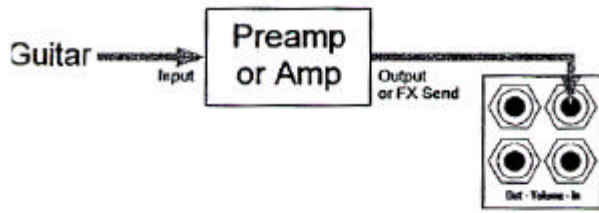
## 6.2 スイッチ・システムを使う

スイッチ・システム ( Digital Music 社製 GCX ギター・オーディオ・スイッチャーなど ) を使って、エフェクト入力からアンプ信号を接続/断絶することが可能です。エフェクトの入力をミュート設定することにより、ディレイやリバーブなどのエフェクトは次第に消滅します。つまり、ソロで最後にディレイをかけた音符は、リズムのプレイを再開後も残る形になります。スムーズなエフェクト切替は非常に便利な機能です。

下記は System Mix Plus と GCX の併用方法の説明です。説明を分かりやすくする為、上述の System Mix Plus 使用 2 例に、GCX を追加したシステムを図解しています。

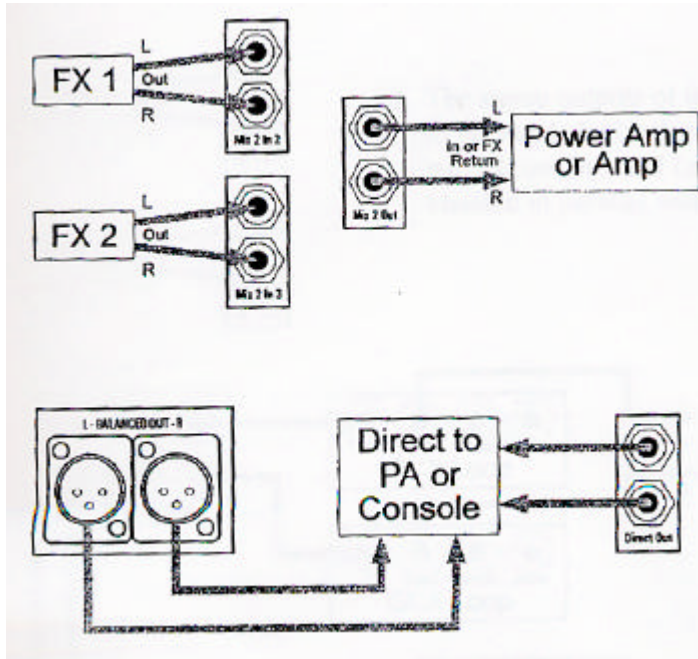
### System # 1 + GCX ループ

この例では 2 台の GCX ループを使用し、2 台のエフェクト・デバイスの入力を切り替えます。



1. ギターをアンプもしくはプリアンプ  
 入力に接続します。プリアンプ出力およ  
 びアンプ・エフェクト・センドはボリュ  
 ーム・コントロールの左入力端子に送信  
 されます。

2. 音声信号はボリューム・コントロ  
 ールから出力され、Mix 1 In 1 Left に送  
 信されます。パッシブ・スプリット機能  
 により、プリアンプ信号はエフェクター  
 の入力端子に直接送信されるのではなく、  
 2 台の GCX ループの各入力端子に送信  
 されます。次に、各 GCX ループのセンド  
 をエフェクターの入力端子に接続しま  
 す。ループが ON 状態の場合、信号が  
 エフェクターに入力されます。ループが  
 OFF の場合、エフェクターへ送られ  
 ない音声信号はミュートになります。



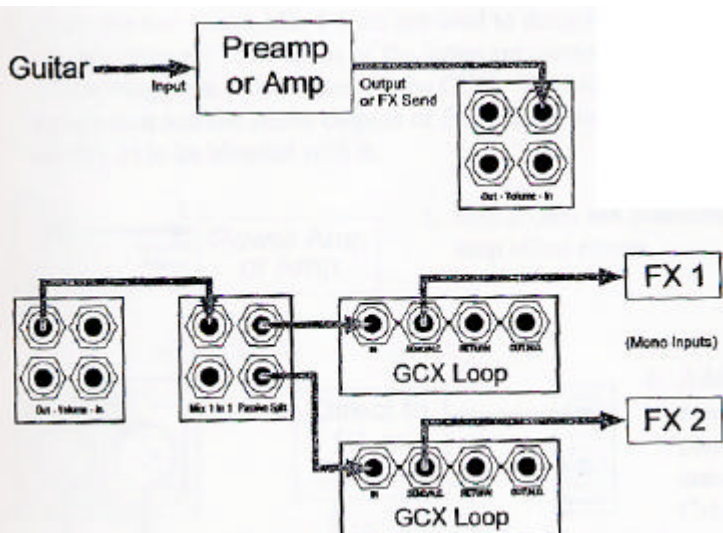
3. エフェクターのステレオ出力はミキサーにリターンされ、  
 Mix 2 の In 2 と In3 を使ってオリジナルのプリアンプ信号  
 とブレンドされます。Mix 2 In 1 は内部接続設定で Mix 1 (プ  
 リアンプ) に接続されている為、ふさがっています。次に Mix  
 2 出力端子をパワーアンプ入力またはアンプ・エフェクト・  
 リターンに接続します。

4. リアパネル上の Direct Outs もしくは、フロントパネル上  
 の Balanced Outs をミキシング・コンソールまたはレコー  
 ダーに接続可能です。キャビネット・シミュレーターが ON  
 であることを確認してください。

この例では、Mix 1 のツマミによってプリアンプ・レベルを  
 コントロールします。また Mix 2 のツマミはミックス全体の  
 信号レベルを設定します。レベル設定の詳細はセクション 3.3  
 を参照ください。

### System #2 + GCX ループ

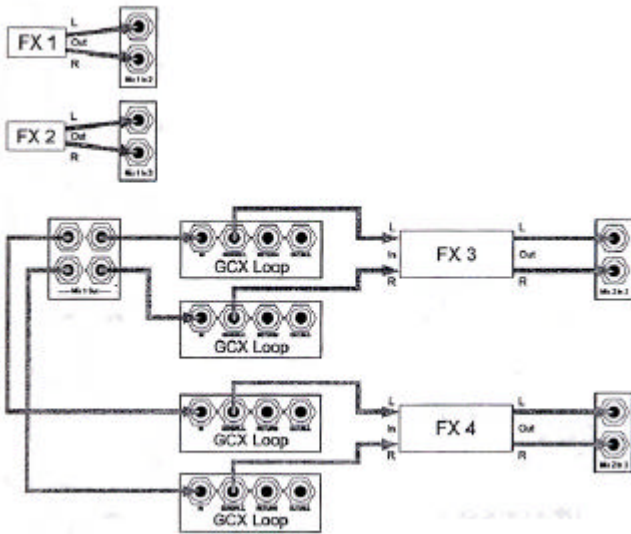
この例では 6 つのループを使って、エフェクターの入力を切り替えます。FX 1 と FX 2 はステレオ仕様  
 ですが、モノラル信号を受信する為、切替に使うループは FX1 と 2 で各一つで十分です。FX 3 と FX 4  
 の切替には、ループが 2 つずつ必要です。



1. ギターをアンプもしくはプリアンプ入力に接続します。プ  
 リアンプの出力もしくは、アンプ・エフェクト・センドはボリュ  
 ム・コントロールの左入力端子に接続します。

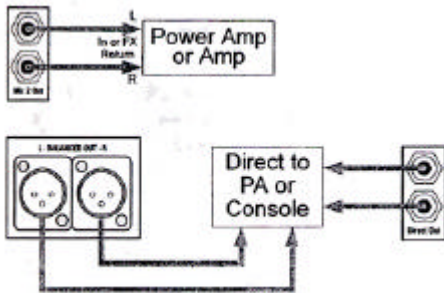
2. 音声信号はボリューム・コントロールから出力  
 され、Mix 1 In 1 Left に送信されます。パッシブ・  
 スプリット機能により、プリアンプ信号が直接エ  
 フェクターに入力されるのではなく、プリアンプ信  
 号のコピーが 2 台の GCX ループに入力されます。  
 次に、各 GCX ループのセンドをエフェクターの  
 入力端子に接続します。ループが ON 設定の場合、  
 信号がエフェクターに送信されます。一方ループ

が OFF の場合、エフェクターへ送信される信号がミュートされます。



3. エフェクターのステレオ出力はミキサーにリターンされ、オリジナルのプリアンプ信号とミックスされます。FX 1 と FX 2 の出力信号は、Mix 1 の In 2 および In 3 に入力されます。これらのエフェクトはオリジナルのプリアンプ信号と並行してブレンドされます。

4. 次に 2 系統のステレオ Mix 1 出力を使って、4 種類の GCX ループを送信します（デバイス 2 台の左右チャンネルに一つづつ）。ループのセンドは、FX 3 および FX 4 の対応する入力端子に接続されます。ループは GCX の操作によってミュートすることができます。Mix 1 の音声信号は、内部接続設定により Mix 2 に送信されます。FX 3 および FX 4 のステレオ出力はミキサー（Mix 2 の In 2 と In 3）にリターンされ、Mix 1 の信号とブレンドされます。



5. Mix 2 出力は、パワーアンプの入力端子もしくはアンプ・エフェクト・リターンに接続されます。

6. リアパネル上の Direct Outs もしくは、フロントパネル上の Balanced Outs をミキシング・コンソールおよびレコーダーに接続可能です。キャビネット・シミュレーターが ON であることを確認してください。

この例では、Mix 1 のつまみがプリアンプおよび FX 1、FX 2 のレベルを設定します。Mix 2 のつまみはミックス全体のレベルをコントロールします。レベル設定についての詳細は、セク

ション 3.3 を参照ください。

# Appendix A

## Technical Specifications

### **Mix 1 and Mix 2**

Input Impedance	
Left and Right channels	44k
Left only, used as mono input	22k
Maximum Input Level	7V RMS or +19dBu
Maximum Voltage Gain	+6dBu
Output Drive	7V RMS across 5k

### **Direct Out**

Output Drive	7V RMS across 5k
--------------	------------------

### **Balanced Outputs**

Output Drive	7V RMS across 600
--------------	-------------------

### **Headphones**

Headphone Impedance	30 or greater
Output Drive	150m W into 30

### **MIDI Volume Control**

Input Impedance	
Left and Right channels	100k
Left only, used as mono input	50k
Maximum Input Level	7 V RMS or +19 dBu
Output Drive	7 V RMS across 5k

# Appendix B: Block Diagram

